

東京鷹桜同窓会報



平成7年の同窓会。みんなで校歌熱唱

巻頭の言葉

高橋俊龍会長

(前東京都副知事)



今年の甲子園球児たちの夏も終わりました。連日の熱闘にこちらの血も沸きました。長く厳しい訓練を経てきた球児たちが、スタンドの何千何百という同窓生たちとともに、校旗を仰ぎ、涙して校歌を高唱する姿は何と晴れがましく、誇らしげなことか。理想郷を誇りに、また青春を謳歌し、限りない向上を誓う校歌の一節一節は、私たちの早苗が原の校歌も同じ。戦中戦後の窮乏と混乱の真っ只中に生きてきた私たちにとって、青春時代への思いは切なくあります。できたら一度は、甲子園で「早苗が原」を思いっきり歌ってみたいものですね。

さて、永年お努め頂いた高橋正二前会長の後を、小生が引き継ぐことになりました。ご推挙を頂いたとはいえ、これまでの係わりあいから申しても決して適任とは思えません。同窓会のありようを、今ごろになってやっと考えるようになったばかりです。役員諸兄弟をはじめ皆さんのご協力を頂いて、活気があって、楽しくて楽しくて、しかも、タメになるという素晴らしい会にできればいいなあと思っています。(昭和25年卒)

わが道を行く

MY WAY



飯澤省三

(長野オリンピック組織委員会事務次長)



標記の題を与えられ、私の歩んできた道を振り返ると、それは国際交流の道ということになりましたか。40年に及ぶ職業生活の大部分が教育の国際交流・協力の仕事で、国際教育科学文化機関（ユネスコ）職員として海外勤務をした期間や国際会議等で外国に出張した期間を通算すれば10年を超えるでしょう。

外国人との意志疎通には共通の言語が必要です。広く通用するのは英語、次いでフランス語でしょうか。したがって、長井高校で高橋先生や菅間先生に英語を教わったのが、私の国際交流の道への第一歩であったといえます。ただし、当時は国際関係の仕事はまだ念頭にありませんでした。日本はまだ国際的に閉ざされていました。

その後、東京都立大学で英語の他にフランス語を学び、教育や文化についての関心を深めたとき、この分野の国際交流の仕事をしたい、そしてまさにその分野の国際機関であるユネスコで仕事をしてみたいという気になったのです。そこで昭和39年、勤めていた郵政省から文部省ユネスコ国内委員会事務局（組織改正で現在は学術国際局が事務を行っている）に配置替えしてもらいました。それが、私にとって現在に通じるひとつの転機となりました。

暫く仕事を通じて教育やユネスコの勉強をした後、ユネスコの職員募集に応募、採用され、夢かなって昭和45年の春から5年間、パリのユネスコ本部教育局で働きました。開発途上国の教育政策立案の手助け、各地域文部大臣会議の開催が主な仕事でした。はじめ、英語とフランス語が飛び交う会議での議論になかなか加われなかったことや休暇にフランス国内や周辺の国を車で旅行し、伝統文化の厚みと生活の豊さに触れたことなどが思い出になっています。

文部省に帰任し、国際学術調整官などのポストで国際交流・協力の仕事をした後、昭和57年から4年間、国際交流基金に出向、人物交流部長として外国の学者、文化人、教員等の招へい事業、日

本人専門家の派遣事業を担当しました。

昭和61年、文部省で国際関係事務を担当する国際企画課長を命じられました。仕事では大蔵省との難しい折衝の後、東京青山の国連大学本部施設の建築予算を認めてもらったことや中曽根首相のご指示で国際ハイレベル教育専門家会議を4か月ほどの準備期間で開催したことが印象に残っています。

海外へ教育専門家を送り出すのも仕事のうちでした。国連機関職員の国別標準任用数は、各国の分担金額に応じたもので、インドなど標準を上回る国がある反面、日本は適当な候補者、希望者が少なく、標準をはるかに下回っています。ユネスコのアジア太平洋地域中央事務所次長が公募されたとき、ぜひ日本人をと文部省内外から候補者を探しましたが、見つからず、それでは自分がと買ってやることになりました。

平成1年4月、最高気温が1年を通じて34.5度というバンコクに赴任、4年4か月、開発途上国の教育振興、識字事業に携わりました。私の在任中、バンコク事務所の識字事業のため、日本政府が文部省を通じて毎年70万ドルを特別拠出してくれることになり、これで識字教育指導者研修、識字教材開発、識字教育パイロット事業などを実施することができました。平成5年5月にクアラルンプールで開いたアジア太平洋地域文部大臣会議の準備、運営、報告書のまとめが最後の仕事でした。

帰国すると、長野オリンピック組織委員会へ出向を命じられ、平成5年9月から国際・渉外担当事務次長として、平成10年2月の長野オリンピックを是非とも成功させるべく、国際オリンピック委員会や各国オリンピック委員会との連絡に当たっています。

この40年間に日本は目覚ましい経済成長を遂げ、国際的に大きく開かれてきました。これからの日本に求められるのは、伝統文化に基づく独自性（アイデンティティ）を大事にし、その情報を国際社会に積極的に発信していくことです。私もこの面でもうひと頑張りしたいと思っています。

先生お元気ですか

東京鷹桜同窓会に魅せられて

水野多門先生

(物理)



1983年の秋、初めて東京鷹桜同窓会にお招きを頂き村山前同窓会長・草刈前事務局長と一緒に参上致しました。伝統ある同窓会とあって著名な大先輩から新進気鋭の若き後輩諸君まで沢山の会員が参

加され、その盛大なことに驚きました。

セレモニー後の懇親会では同窓という絆が醸し出す和やかな雰囲気の中で、懐しい故郷や母校の思い出に花が咲き、互いに旧交を暖め近況を語りながら励ましあったり、先輩諸兄から御指導を頂いたり和気藹々の中に過ぎた楽しい一時が、ともすると不安や孤独に陥りがちな都会生活のオアシスとして大事な役割を果たしている事実に感銘を受けてきました。

私も会員の皆様から数々の御指導を賜り激励を頂いて帰校しましたが、早速村山会長や草刈事務局長と相図って置賜各地の鷹桜同窓会支部づくりに着手致しました。お蔭様で今では17支部が設立され支部組織を確立出来ましたことは、初めて参上した東京同窓会に魅せられたからであったと感謝申しあげている処であります。

さてその後の私ですが、28年勤めた母校の長井高校を後に1975年4月から米沢工業高校、新庄南高校、県教育庁と転々し、1983年再び母校に勤務し1987年3月に定年を迎えて退職致しました。

退職後は社会教育関係の仕事で県や市のお手伝いをしたり、長井西置賜地域シルバー人材センターの理事長等を元気で勤めております。

この間現職中はずもとより、退職後も随所で同窓生の皆様から適切な御指導と御助言を頂き助けられて、無事に今日を迎えておりますことを深く感謝申しあげている次第であります。

在京の皆様にはお目にかかる機会も少なく御無沙汰致しておりますが、幸いに今秋は東京鷹桜同窓会に参上する機会を恵与下さいましたので直接皆様に御礼を申し上げながら懇談出来ますことを楽しみにしている処であります。改めてその折に。

心だけは若いつもり

小川 淇先生

(保健体育)



今からちょうど30年前、昭和41年4月、大学卒業ホヤホヤで長井高等学校に赴任し、以後10年間お世話になりました。今考えると恥ずかしいほど、教職に燃えていたような意識もなく、ただ若さに任

せてがむしやりに日々を送っていたような気がします。そのためか10年間はあっという間に過ぎて去ってしまいました。

体育実技の授業は、生徒に教えている実感はなく一緒に動き回っているだけでした。金井神一周のときは、その日4時間授業があると4回とも走って来れた当時の自分の体力に今さらながら驚きます。放課後は野球の練習を頑張りました。野球をやっている時間が一番短く感じられ、自分なりに一番熱中していたのですが、その割には良い成績をあげる機会は少なかったように思え、その反省が後の学校のチーム作りに生かされたのはちょっぴり皮肉です。当時の野球の練習は、今と違ってシーズンオフにはあまり頑張りませんでしたので、冬はスキーに狂いました。10年間のうち8年間学級担任ができ、間近に生徒と接する機会を得ることができたのも若さの賜物でもあり、よい思い出が多く最大の幸せだったと思います。

その後、高畠高校6年、寒河江高校3年、山形中央高校6年、上山高校2年と上山明新館高校(上山高校と上山農業が統合新設されて公立高校では県一の規模の学校)1年を経て現在は山形工業3年目の勤務になります。

山形工業は、県の高校野球連盟事務局があり、その仕事もしているため、今はユニホームを着てグラウンドに立つことはなくなりました。時代の流れと自分の年齢を感じてしまいます。肉体的な年齢はどうしようもありませんが、心の年齢だけは当時のままでいるつもりですから、長井高校時代の私をイメージして下されば、現在の私の姿が浮かんでくることと思います。東京の皆さん、いつまでも若さを保って頑張ってください。

千鷹桜通信

林崎春子(昭和4年卒) 東京鷹桜同窓会報、確かに入手いたしました。いつもながら、大変嬉しく懐かしく拝見しております。夢多き少女時代の日々の思い出などが次々と浮かんできて、早速同級の方にもお電話して暫く語り合いました。編集の委員各位に感謝申し上げます。

私達昭和4年長井高女卒は、昭四会と称して毎年クラス会を催しております。今年も6月28日に、長井のとらや旅館で施行されました。82歳~84歳の方々が17名も集まりました。皆様、誠にかくしゃくとして出席されました。ホーッと、喜びと驚きにためいきをつく思っていました。「来年も集まりましょう」と別れて参りましたが、願わくば皆様、今の様に元気で再会出来ます様、心から祈ってやみません。長井では、とらやさんの御厚意で長井のあやめ公園や久保の桜等御案内頂き、大変有意義な会であったと感謝しております。

中村和夫(昭和16年卒) 同窓会報ありがとうございます。毎回、懐かしく拝見しています。幹事の皆様には、ご苦労様です。感謝しております。

斎藤 斉(昭和19年卒) いつも欠席で申し訳ありません。あいにく、当日は11月3日の宝生流謡の準備のため朝からでかけますので、欠席いたします。幹事さんのご苦労に感謝いたします。

斎藤利雄(昭和20年卒) いつもお世話になっております。今浦島で出そびれています。なつかしい旧友に会うためにも、いつか出席させていただきたいと希っています。

滝井いち(昭和26年卒) いつも心の籠もった会報ありがとうございます。事務費だけの会費で申し訳ありません。よろしく願います。

萱島完彦(昭和32年卒) 昭和32年卒在京同窓会は、毎年都内で会長を中心にし集会をもっています。卒業年次同窓会と鷹桜会とふたつ重なりますと、なかなか出にくいというのが実情。いっそ、各年次の同窓会と連絡を取り合って、何年かに一回合同で大同窓会を開いたら如何。

原田美記子(昭和45年卒) いつもいろいろお世話下さりありがとうございます。同窓会報なつかしく拝見致しました。表紙の「西根から見た西山」の写真、しばし見惚れておりました。

同窓会スナップ



「いやあ、のぶしえんしえ、いつまでも若いなや」



「久しぶり！変わりねーが？」



「何とったごど、元気でいだが？」



48年卒の美女ふたり。和貴子さんと美佐子さん

ほっと・フォト・HOT

(平成7年10月22日の東京鷹桜同窓会、新宿モノリスで)



「わだし達、昔からキレイだびしたア」



駆けつけて下さった高橋実先生と

会場には、久しぶりのズーズー弁



山口のぶ先生の指揮で校歌斉唱



なつかしい。よく見ると昔の面影が



青春の日々が各々の胸に



若い衆もいるべ。
若い衆もっと集まっとええな



「ここは2次会。これからもっと飲むぞ」

あのひと



夢を
追いかけて

平 博 美

'89年、日本が平成に変わる頃、私はNY（ニューヨーク）との闘いを終え、帰国した。

19歳で歌手デビューし、バンド活動後、24歳で初渡米。JAZZに出会い、GOSPEL、LATINと歌やダンスを追い求める10年だった。歌やコーラスの仕事もでき、ボイストレーナーとして教える機会も得て、バレエスクールにも30歳を過ぎて入った。無我夢中の生活の中のNYを満喫できた。

そして今、定期的なLIVEやSHOWなどの公演、生徒たちのプロデュース、訳詩や作曲など…etc.。今月は、自分のオリジナル曲の録音制作中で超多忙の日々だが、終われば山形に帰れるし、またNYに行けると思い頑張っている。

長井はいい。部屋から一望できる長井小学校の校庭、その後ろに広がる最上川や西山、そしてNYのハドソン川の情景がプラスされ、我が心の故郷はいつも私のパワーとビタミン剤となる。

長井高校時代は、将来の夢を語る友もなく、正直つらい時期だった。卒業して神田外語学院に入り、音楽や英語について語りあえる友もできて、私の夢はスタートした。パートナーである主人と仲間達とDANCE&VOICEの意味で「DAN-VOプロジェクト」をつくり、多種多様のステージ活動を繰り広げている。次回は10回目（来年予定）、ぜひご覧ください。そして、応援してくださいね。（昭和48年卒）



ショーで唄う
平さん

このひと

大地の心と小鳥の翼を
持つ音をめざして

——はみ出しミュージシャンのひとりごと——



八 木 倫 明

高校時代を今思うとボクはコンプレックスの固まりだった。成績は低く、スポーツも得意でなく、背も低い。いわば“三低”。部活の吹奏楽に熱中したのは、そのコンプレックスと闘っているという自己表現だった。とにかく県大会優勝、東北大会出場めざして「音楽」に明け暮れた。3年の時目標は果たしたが大学受験は予定どおり失敗。

一浪して私大の商学部に入り卒業後日本フィルハーモニー交響楽団の事務局に就職。オーケストラの本体は90名の芸術家集団、事務局員の多くも音大出の芸術家タイプかアマチュア・オケのメンバーだった。数年して、ボクはコンクール至上主義だった過去の音楽生活を振り返り、同時に、高価な楽器や学歴（楽歴）などがモノをいうクラシック業界の欠点を見て、何とかしてそういうつまらないモノサシや世間の「常識」や「先入観」を打ち破って、自由に音楽をやりたいと思った。それは自分自身のコンプレックスからの解放も意味した。そして'87年に地球音楽を追求するエコロジック・バンド“ロス・ネリモス”を結成。現在のメンバーは7人。楽器は尺八、ケーナ、チャランゴ、ギター、コントラバス、マンドリン、ピアノ、マリмба、各種パーカッションなど多数。こんな不思議な楽器編成で調和したサウンドを生み出していく作業そのものが、ボクにとっては、「世間」から自由になり、自分を解放する闘いでもあった。小鳥の翼のような自由なサウンドは大地の寛容さを持つ音楽になり得ると思う。今、そんな音をめざしている。（ロス・ネリモス ケーナ奏者、1976 [昭和51] 年卒）

東京鷹桜同窓会会長辞任ご挨拶

高橋正二



高橋俊龍氏（昭和25年卒、前東京都副知事）という立派な後継者にバトンタッチが出来た事を心から喜んでいます。

長沼孝三初代会長（故人）を先頭に須藤恒雄（昭和3年卒）、大国輝武（昭和3年卒）、桑島喜平（昭和4年卒）、渋谷利蔵（昭和4年卒）、小松栄一（昭和8年卒、故人）各氏等と共に、細々となってゆく同窓の絆を断ち切るまいと、歯を喰いしばる思いで頑張った往時が懐かしく偲ばれます。

昭和26年春、早苗原白鷹健児と小桜城趾乙女達と一緒にになった東京鷹桜同窓会創立総会が発足してから、年々活気を呈し、会員も増強し今日の如く発展を遂げて参りました。長井本部並びに先輩各位のご指導と、会員の同窓意識に燃えたご協力の賜と深く感謝いたします。

昭和56年、長沼孝三氏の後を受けて会長就任以来、14年の年月が夢の様に過ぎました。この間、歴代副会長として私を補佐して下さった川野カツ（昭和2年卒）、吉田志津（昭和9年卒）、安部欣一（昭和15年卒、元事務局長）、中島コウ（昭和20年卒）、高橋忠三（昭和26年卒、元事務局長）、綿谷琴子（昭和28年卒）の各氏を始め、事務局長として、庶務万端を処理して下さった菅七郎（昭和27年卒、故人）、土屋東一（昭和35年卒）、安部俊彦（昭和46年卒）等の各氏、又事務局のブレンとして活躍して下さった斉藤喜代次（昭和12年卒）、吉池良材（昭和14年卒）、森正吉（昭和15年卒）・和吉（昭和18年卒）兄弟、稲葉俊子（昭和18年卒、故人）、椎名茂（昭和26年卒）、貴志悦子（昭和26年卒）、木村繁（昭和28年卒）、当麻葵（昭和28年卒）、大谷礼子（昭和31年卒）、末吉暁子（昭和36年卒、会計）、石井宏子（昭和37年卒）、丸川満（昭和39年卒）、遠藤剛（昭和49年卒）等々の各氏のお顔が目に浮かんでくる。有難うございました。

「鷹桜不滅」を祈念しつつ、今後共微力を捧げて参りたいと思います。相変わらずのご交誼をお願い申し上げます。

◇新しい役員体制◇

会 長	高橋俊龍	0489 - 65 - 3429	土屋東一	03 - 3427 - 9639
副 会 長	木村 繁	03 - 3558 - 0635	事務局長 安部俊彦	03 - 5261 - 2128
	丸川 毅	03 - 3326 - 5800	庶 務 佐藤いく子	03 - 3726 - 1658
	綿谷琴子	03 - 3469 - 7733	齋藤 隆	0471 - 31 - 7544
	中島コウ	03 - 3700 - 8411	会 計 那須優則	03 - 3261 - 5511
顧 問	高橋正二	03 - 3425 - 8285	会計監査 森田光雄	0426 - 21 - 0932
相 談 役	川野カツ	044 - 722 - 4659	中山和弘	048 - 746 - 6423
	桑島喜平	03 - 3594 - 2819	編 集 遠藤 剛	0424 - 84 - 2486
	安部欣一	0429 - 25 - 3975	志釜 拓	03 - 3697 - 7534
	高橋忠三	03 - 3972 - 3817		
常任幹事	椎名 茂	03 - 3941 - 5806		

◇事務局報告◇

(1) 活動報告

平成7年4月 事務局会議。

5月 役員会。役員改選の原案、学年幹事会の議案決定。

6月 学年幹事会。役員候補承認、事務局候補承認。参加44名(神楽坂エミール)。

7月 会報編集打ち合わせ。本部総会、事務局長、会長代理参席。

8月 事務局会議。

9月 案内状送付。23名参加(昼食のわらび漬、茄子漬大好評、主婦と生活社)。本担当、準担当、事務局、総会の最終チェック。

10月 総会(新宿モノリス)。102名参加。新役員、事務局承認。くじ引き抽選会(1等・山形産まつたけ他、豪華賞品多数で盛り上がる)。

12月 反省会&慰労会。

平成8年2月 高橋正二前会長主催による歴代役員、事務局員慰労会。

4月 新旧事務局引き継ぎ。担当学年の選定。

6月 学年幹事会。総会を「土曜日」に決定。各学年の名簿補足を学年幹事に依頼(も一吉)。

7月 本部総会。事務局長、会長代理参席。

8月 事務局会議。名簿見直し作業、編集打ち合わせ。

9月 案内状送付。28年卒、46年卒、事務局、30名参加(も一吉)。

平成8年度東京鷹桜同窓会担当学年幹事

本担当 28年卒

木村 繁、綿谷琴子、新田 正、衣袋美砂子

準担当 46年卒

安部俊彦、森田光雄、小野ひで、宮川由美

(2) 平成7年度会計報告

(平成7年4月1日～平成8年3月31日)

〔収入〕

前年度繰越金	520223
事務費	742000
総会費	700000

役員・幹事会費	277644
御祝金	154000
本部助成金	40000
受取利息	100530
計	A 2534397

〔支出〕

総会費用	691138
事務費	23873
会議費	374889
印刷費	259745
通信費	365816
本部助成金	50000
交際費	10000
計	B 1775461

収入計A－支出計B＝758936(次期繰越金)

編集後記

21世紀まで後4年。低迷する経済状況、不完全燃焼のアトランタ・オリンピックH本、O-157…と、不安で、明るい話題の少ない状況が続いています。

このような折り、東京鷹桜同窓会にとりましては、高橋正二前会長から高橋俊龍会長への引き継ぎがあり、役員体制が若くなりました。前の役員、諸先輩が築いて下さった今日の同窓会をますます発展させていかなければなりません。その礎となるのは、同窓生一人一人がまず何より健康で人間的に生きておられることです。そして、その声を会報に寄せて頂いたり、同窓会に懐かしい顔を見せて頂くことでさらに絆が強まるものと確信します。10月の同窓会は、「おれの同級生何人いっぺ。あの人もくっぺが?」と、みな期待半分不安半分でこられます。気のきいた言葉は必要ありません。みなズーズー弁です。ご出席をお待ちしています。最後に、ご協力頂いたみなさんに心から御礼申し上げます。

東京鷹桜同窓会報 第15号

平成8年10月1日 発行

発行人：東京鷹桜同窓会

編集委員：遠藤 剛

志釜 拓

*東京鷹桜同窓会：長井中学・長井高女・長井南・長井北・長井高校の卒業生による東京首都圏在住者の同窓会組織

*事務局：〒107 東京都港区赤坂1-6-14 赤坂協和ビル204 土屋・味岡法律事務所内 (電話：03-5570-5834)